

異年齢・異学年組織によるイノベーション創出とその教育的効果の実証事業

事業責任者: 経営学研究科 原泰史
協力組織: 一般社団法人リベルタ学舎

目的: イノベーションを創出する上で、多様性を確保することは果たしてどのように寄与するのでしょうか? 本事業の目的は、多様性を有する集団による、問題の発見から解決手法の実践までのプロセスを支援・分析し、新たなイノベーション手法の開発と同時に、イノベーション人材育成のための教育手法を開発することである。

概要: 2023年9月から2024年3月にかけて、社会人の協力者(3名)の助力を得つつ、一般募集した中高生10名(中学生3名、高校生7名)が主体となり活動した。なお、事業実施の過程では神戸大学経営学部原ゼミナールの学生も参加した。活動エリアである農地にて、竹林整備活動や竹炭作りなど実践的な活動を行いながら、フィールドの理解を深めることを2024年2月までに実施した。続いて、2024年3月10日にメインイベントを実施した。当該イベントでは、竹林整備活動を通して見えてきた潜在的なニーズの一つである風雨や日差しを凌ぐことができる屋根(テント)の設置および、伐採した竹材の活用方法として炊爨を実施した。なお当日参加者として、社会人(3名)および中高生4名(中学生1名、高校生3名)も参加した。

活動内容1: 竹を活用したテントの設置



活動内容2: 竹を活用した炊爨



事業の成果および今後の展望: 多様な集団において各自が持ち寄る経験や技術を擦り合わせ、目的を達成する過程では、コミュニケーションや目的を明確化することが必要不可欠であることが明らかになった。今後は、より多様なコミュニティ出身の人々を参画させることで、イノベーションを創出する過程で多様性はどのように律速要素となるか、あるいは革新的なイノベーションを生み出しうる素地になるかについて、より個人の行動に着目するため移動データ等を活用した分析を行う予定である。